

学校運営協議会 第3回会議 議事録

日 時：令和4年11月7日(月) 午後2時30分～4時30分

場 所：浜松湖北高校 佐久間分校 各教室・会議室

出席者：委員 坂口 健 様 校長 大澤 貢
 委員 呂瀬三男 様 副校長 望月俊和
 委員 坪井俊介 様 教 頭 奥村友介
 委員 大見拳也 様

※呂瀬委員・大見委員は午後3時25分から参加

【開会】

1 授業見学(各教室)

2 校長挨拶

3 議事

(1) 佐久間分校の校則・安全対策について

〔事務局説明〕 高校生活のしおり(校則)について

生徒たちの安全を保つ仕組み(危機管理マニュアル)について

いじめ防止、生徒の心のケア等について

《委員質問・意見》

(校則について)

- ・制服についてはジェンダーの件もあり、とても大事な案件である。高校生活を安心して過ごせることが大切。佐久間分校の少人数の中で“人と違っていいんだ”という経験を経ることで、卒業後に大きな集団の中で生きていく力を得ることができるのではないか。
- ・中高生ともに礼儀正しく、心遣いもでき良い生徒である。地域住民からも「礼儀正しく挨拶もよくしてくれる。人柄もよい。」との話を聞く。
(事務局より)頭髪についてご意見があればうかがいたい。
- ・生徒の様子に違和感はない。社会通念上どうかを基準に判断すればいいのではないか。
- ・自分の高校時代は厳しい校則の中で生活していた。今の高校生には学校が自分の思いと異なっていた場合学校をやめたり転学したりするという選択肢がある。佐久間分校では校則を機械的に運用するよりも、少人数の特徴を生かして生徒個別に意思疎通を深め、相互の理解を大切にしてほしい。

(安全を保つ仕組みについて)

- ・地域防災から見れば、分校生はコミュニティの中の貴重な人材である。

(2) スクールポリシーについて

〔事務局説明〕 スクール・ミッションの確認

スクールポリシーについて

《委員質問・意見》

- ・北遠・奥三河地域にある学校として、少人数・体験型の授業を実践していることをPRしたい。他の多くの地域から希望が出る可能性もある。
- ・文章化しても伝わらないものも多い。(表や図などの)デザインを含めて発信できれば良いのではないか。一般企業の経営計画等と同じである。
(事務局)学校案内やホームページ等で実践できるよう取り組んでいきたい。
- ・「多様な進路希望」と「オンリーワンハイスクール事業」のつながりは?
(事務局)オンリーワンハイスクール事業は本校と分校が一体となって取り組んでいる。県から一定予算が出ており、昨年度から来年度までの3年間で進めている。進学系の取組としては遠隔授業や本校での英語集中講座、就職系としては本校と連携し商品開発や地域振興の取り組みを行っている。
(校長)県教委の事業であり、多くの予算を付けていただき通常の取り組みではできないことを行っている。
- ・進路希望はいろいろ出ているのか?
(事務局)竹工芸の専門学校を希望する生徒がいる。その他、動物関係や森林系を希望する生徒もいる。

(3) その他

[事務局説明] 地域行事への協力について

学校設定科目「地域学」を通じた活動について

「#ダム際ワーキング」について

《委員より「#ダム際ワーキング」について補足》

- ・本年度、観光庁により採択された佐久間ダム周辺をワーケーションの場としてPRする事業であり、分校にも協力をしてもらい進めたい。12月12日(月)にモニターツアーを予定しており、各地から申し込みが来ている。分校生徒が参加する企業の方とともに講義を受け、交流できればと考えている。

《各委員より》

- ・経験のある方々に接して、生徒が何を考えるのが重要である。
- ・高校の段階で、働き方の多様性や社会について知る経験は非常に有益である。

4 意見交換

- ・過去には郷土芸能を学ぶ取組があったが現在はどうなっているのか。
(事務局)過去には郷土芸能部があったが、現在は特に行っていない。
- ・若者の減少による人材難があり、郷土芸能の継承自体が難しくなっている。わずかな時間でもよいので取り組んでいただけるとありがたい。
(事務局)地域学や地域実践の授業などで可能か検討していきたい。

5 連絡事項等

- ・第4回について

本年度の学校経営について、分校職員による自己評価を踏まえて、委員の皆様に関係者評価をお願いしたい。

2月7日(火)又は15日(水)を軸に予定している。午前中になる可能性が高い。

【閉会】